

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

| | | |
|---------|-------|---------------------------|
| 氏名 笠 修彰 | 職名 講師 | 学位 修士(健康福祉学)(西九州大学 2007年) |
|---------|-------|---------------------------|

| | |
|-------|---------------------|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| 社会福祉学 | 障害者福祉 地域福祉 ソーシャルワーク |

| |
|--|
| 研究課題 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の地域移行や地域定着支援に関する研究 ・子育て不安等を抱える保護者のメンタルヘルスに関する研究 ・保育者養成校、保育所・児童福祉施設、地域が連携する研修プログラムの構築に関する研究 |

| |
|--|
| 担当授業科目 |
| 児童家庭福祉(前期) 社会的養護(前期) 相談援助(前期) 社会福祉(後期) 社会的養護内容(後期) 保育実習指導Ⅰ(通年) 保育実習指導Ⅲ(通年) こども学基礎演習(通年) こども学特別演習(通年) 施設実習Ⅰ(学外実習) 施設実習Ⅱ(学外実習) |

| |
|---|
| 授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項) |
| 授業科目名【 児童家庭福祉 社会福祉 社会的養護 】 専門的知識・技術をより具体的に理解できるよう、クイズ形式の質問などを活用し、不特定多数の学生に発言の場を提供した。また、適宜補助プリントを作成し、配布。プリントは、授業内容の理解を補助するもの、授業内容の理解度が確認できるテスト形式のもの、要点をまとめたものなどを作成し、理解度の把握及び意欲の向上を目指した。 |
| 授業科目名【 相談援助 社会的養護内容 】 具体的な事例を用いた個人ワークやグループディスカッションを多く取り入れ、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう工夫した。また、授業内容を補助するプリントを作成し、学生が主体的に学習できるよう支援した。 |
| 授業科目名【 】 |

授業科目名【 】

| 学 会 に お け る 活 動 | | |
|-----------------|-----------|---------|
| 所属学会等の名称 | 役職名等 (任期) | 加入時期 |
| 一般社団法人日本社会福祉学会 | 会員 | 2008年7月 |
| 日本看護福祉学会 | 会員 | 2013年4月 |
| 日本保育学会 | 会員 | 2016年9月 |

| 2018年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項 | | | | |
|--|---------|-----------|----------------------------|--|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概 要 |
| (著書) | | | | |
| (学術論文) | | | | |
| (翻訳) | | | | |
| (学会発表) 1. 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究 (3) 実習前後における子ども理解の変容 | 共同 | 2018.5 | 第71回日本保育学会 (於 宮城学院女子大学) | ①保育者として必要とされる資質に関連する要素が保育者養成課程の2年間でどのように変容しているのかを明らかにすることを目的とした縦断研究の一部である。保育者に必要とされる複数の資質のうち「子どもの発達理解」に着目し分析を行っている。特に子ども理解尺度の下位尺度「知的・情緒・社会機能の発達」に注目し、入学時から1年間の意識の変容についての分析結果を報告した。 ②篠木賢一, 阿南寿美子, 命婦恭子, 笠 修彰 |

2018年度 研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|-----------|----------------------------|--|
| 2. 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究 (4) 実習前後における援助観の変容 | 共同 | 2018.5 | 第71回日本保育学会 (於 宮城学院女子大学) | ①保育者として必要とされる資質に関連する要素が保育者養成課程の2年間でどのように変容しているのかを明らかにすることを目的とした縦断研究の一部である。保育者に必要とされる複数の資質のうち「援助観」に着目し、入学時から1年間の援助規範意識の変容についての分析結果を報告した。 ②笠修彰, 阿南寿美子, 命婦恭子, 篠木賢一 |

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

| 研究題目 | 交付団体 | 研究者 ○代表者 () 内は学外者 | 交付決定額 (単位:円) |
|--------------------------------|--------------|---|-----------------|
| 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究 | 西南女学院大学共同研究費 | ○阿南寿美子 命婦恭子 篠木賢一 笠修彰 末寄雅美 上村眞生 (上原真幸) | 386,000 |

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

| 研究題目 | 交付団体 | 交付決定額 (単位:円) | 備考 |
|------|------|-----------------|----|
| | | | |

| 社 会 に お け る 活 動 等 | | |
|----------------------|---------|---------------|
| 団体・委員会等の名称 (内 容) | 役 職 名 等 | 任 期 期 間 等 |
| 公益社団法人日本精神保健福祉士協会 | 会員 | 2008年4月～現在に至る |
| 一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会 | 理事 | 2009年6月～現在に至る |
| 北九州地区精神保健福祉士協会 | 会員 | 2015年4月～現在に至る |
| 『保育福祉小六法』(株) みらい | 編集委員 | 2016年4月～現在に至る |
| 公益社団法人日本社会福祉士会 | 会員 | 2017年9月～現在に至る |
| 公益社団法人福岡県社会福祉士会 | 会員 | 2017年9月～現在に至る |
| 北九州市家庭教育支援事業プロジェクト会議 | 委員 | 2018年5月～8月 |

| 学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など) | | |
|-----------------------------------|--|----------------------|
| 学生募集委員会 副委員長 (進学ガイダンス7回, 高校訪問16校) | | 2018年4月1日～2019年3月31日 |
| キャンパス・ハラスメント相談員 | | 2018年4月1日～2019年3月31日 |
| 児童文化部 顧問 | | 2018年4月1日～2019年3月31日 |
| 北九州市民カレッジ「子どもに寄り添うコミュニケーション」講義 | | 2018年12月3日 |